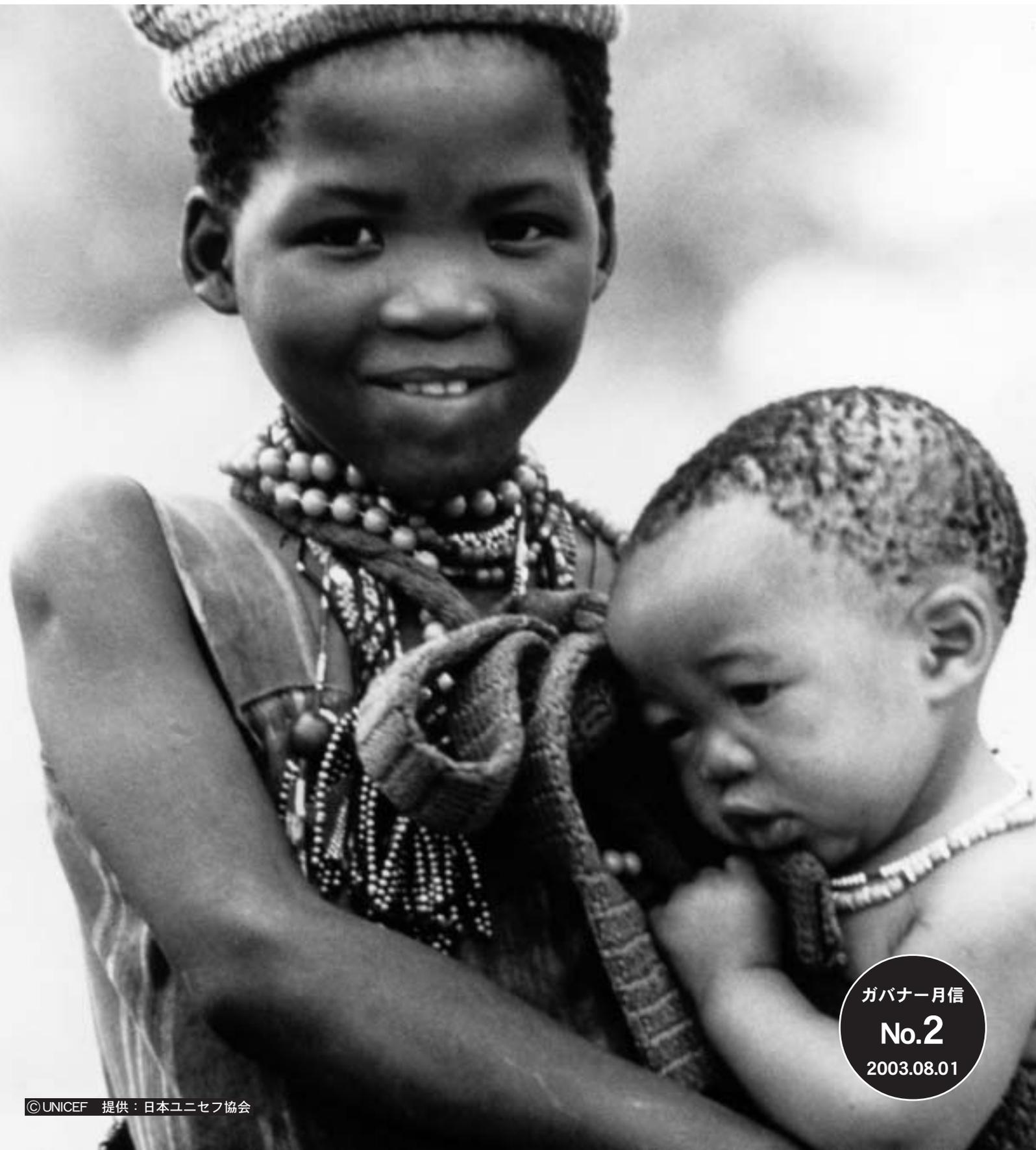


GOVERNOR'S MONTHLY LETTER



Lend a Hand

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2570



ガバナー月信

No.2

2003.08.01

GOVERNOR'S MESSAGE

『会員増強及び拡大月間に寄せて』

なぜ会員数は減ってしまうのか



ガバナー 高山 孝

RIは、会員増強より、退会防止に力を入れようと考えています。

2002 - 03年、日本と韓国が退会防止に関するアンケートを現在実施中です。

退会の理由、例会のあり方、奉仕活動のあり方、クラブの奉仕プロジェクト、クラブ会報、会費の状況、臨時会費、リーダーの適性といったチェックを行っています。

2000 - 01年に退会に関するアンケートがアメリカで実施されました。この結論として、RIは2万名にアンケートし、回収率18%でした。ロータリークラブについて、退会会員は不満を持っていない。85%はむしろ好感を持っているとしています。

退会理由は、出席義務を果たせなかったこと。仕事上、転勤とか転居などのためにクラブに行けなくなったこと。そして、ロータリー以外に今、やりたいこと、興味あることがあって、一時的に退会せざるを得なくなったと結んでいます。

日本でも同じ理由なのでしょうか。

RIが退会者1万3,161名に日本語でアンケート調査をしました。昨年10月から11月の1ヵ月として、現在も統計調査中です。正式の解答はまだないのですが、日本と韓国では、相当異なるのではないかと予想されます。

地区会員増強委員会議など増強セミナーで、主な問題点が指摘されています。

①会員増強しようという意識が薄い

クラブ会長を中心に増強に真剣に取り組む必要がある。

②ロータリアンとしてのステータスが落ちてきた

名士とか金持ちとかいったステータスと呼ばれるものは時代に適さないのではないか。ロータリアンがこれを容認すべきではないか。職業倫理をしっかりと実践し、地域社会のために少しでも奉仕活動をしたいという人の集まりであるべきである。

③クラブの活性化につながる会員増強を行う

会員会費未納を認めず、35歳以下の会員の会費一部免除等、クラブ内問題。

若い方や女性会員の入会を考える。

(ゾーン 資料から)

会員数は最近では5年前がピークで121万3,748名でした。それが年に約1万名減少を続け、現在では117万432名です。そこでキングRI会長は「グローバル・クエスト・キャンペーン」を強く訴え、結果6万名の増強が得られました。

世界はキャンペーンで増えたのですが、日本では1996年以来ずっと減少を続けているのが実情です。

ロータリー特別月間 (2002 VOL.50 NO.12 ロータリーの友より)

8月 会員増強及び拡大月間 (Membership and Extension Month)

会員増強には、内部拡大、外部拡大の二つがあります。内部拡大は、クラブの区域内で得られている適格な職業分類の代表者に入会してもらい、クラブの会員数を増やすことです。

クラブの拡大は、会員数増加の牽引車的役割を担っています。前年度に引き続き、今年度、ラタクルRI会長は、ロータリーの100周年の2005年までに150万人の会員を、という目標に向けて尽力するよう奨励、また、それぞれのクラブや地域社会に献身できる質の高い会員が重要である、と強調しています。

ロータリー 特別月間 8月

会員増強及び拡大月間

(Membership and Extension Month)

クラブの自主性という言葉が発せられるのをしばしば聞きます。これは、クラブ活動の自主性ということだと思います。ロータリーはロータリーとして守らねばならないものが存在します。活動面では“何を変えたほうがよいか”を考えてほしいのです。

ロータリアンは、地域社会のために奉仕をしたい、奉仕活動に参加し、みずから手を貸す実践的な経験をしたいという気持ちが強いのです。ロータリーの掲げる夢は難しいものではありません。ただ時々、無意識のうちに、ややこしいもの、取りつきにくいものと考えてしまいがちなのです。

その結果、クラブのリーダーは原動力やビジョンを失って、行動できず、親睦や奉仕への道があいまいになってしまいがちです。会員自身が「私に何ができるか」とみずからに問いかけることとなります。クラブから心が離れ、よくあることですが実際にクラブをやめてしまいます。

■会員増強委員会対策（例）

1. クラブ活動に、配偶者・知人・家族、特に女性の方をできるだけ多く参加させる
2. 会員増強、特に退会防止に注目し、ロータリアン家族の参加に努める
3. 新入会員の教育指導に努める
4. 有望な会員候補者を例会・家庭集會に招き、ロータリー情報・広報の理解を促す
5. クラブ会員をいくつかのグループに分けて、会員の候補者を探す

■退会防止（例）

ロータリーが健全な発展をしていくには、退会防止は新会員の入会と同じくらい重要です。ロータリアンのうち積極的な関心を持っている者は30%で、70%のロータリアンは、ロータリーに無関心かあるいは魅力を感じていません。この70%のうち、半数が積極的に奉仕活動に参加する真のロータリアンになれば、次世代のロータリーは健全だと思います。

したがって、積極的に参加しない70%のロータリアンを教育してロータリアンの質を高める努力をすべきです。

このようにロータリアンの退会を防止することは、各クラブの最優先事項です。ロータリアンの質が高ければ、ロータリーに魅力を覚え、若者が入会するようになります。だが私たちの求めるロータリアンの質は、質の高い心

を持った人のことであって、単に所得や地位が高いだけではありません。

■プログラム（案）

1. ロータリー・ニュースと情報の頻繁な伝達
2. 各グループ合同会議の出席
3. クラブ・プロジェクト活動に直接参加
—単に寄附だけでなく実際に汗を流す活動—
4. クラブ内の親睦・娯楽活動
5. 会員がロータリーに関心を持ち続ける意欲的効率的活動

■女性会員について

2003 - 04年度は、ロータリー女性会員にターゲットを当てます。

R I 理事会は、女性のニーズと向上に関する次の声明を採択しました。

1. ロータリー運動において女性が、ロータリアンとして、配偶者として、関係団体として、ロータリーの綱領の達成に貴重な貢献をしていること
2. 女性の地位は、子どもや家族の幸福に本来密接な関連のあること
3. 女性の地位向上は、全社会のためになること
4. 女性は未来の建設に重要な役割を果たすこと

ガバナー補佐

本年度の抱負と方針

第1グループ ガバナー補佐 可児一男 (川越RC)

各クラブの伝統と慣習を生かして

地区大会の御礼を申し上げないうちに、次年度の補佐の仕事が始まってしまいました。

人とのつながりでお引き受けすることになりましたが、力不足を承知の上でご迷惑のかからないように取り組むつもりでございます。マイペースでロータリーに参加していたのに、という思いです。

補佐とはガバナーのアシスタントとしてガバナーとクラブの間のクッション役と解釈しております。両者の考えを聞くことが大切なことと

なるでしょう。私は各クラブの会長、幹事さんが今年度のテーマをどう理解して、どう展開していくのかに強い関心を持っています。クラブの伝統や慣習の中で熱意と個性がどう表現されるかに興味があるからです。

私にどんな貴重な体験がこれからの一年の間に行えるのかと、期待より不安の方が大きくなってきております。

第2グループ ガバナー補佐 浅田光二 (志木RC)

意義ある年度を築きたい

ガバナー補佐はRI理事会の推奨する地区リーダーシッププランに基づき、地区や国際ロータリーと友好的な関係を推進することも大切な役割の一つです。この面からも精一杯努力したいと思いますので、会員の皆様のご理解とお力添えを、よろしくお願い申し上げます。

近年、会員増強と退会防止に、各クラブのご苦勞が続いています。しかしながら、どのクラブでもユニークな発想のできる、素晴らしい会員がおられるように思われます。したがってこの厳

しい時代だからこそ、ロータリアンの英知が遺憾なく発揮され、会員増強と退会防止にも適切な対応が図られると思います。職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、新世代に対する奉仕が各クラブで十分に討議され、さらにその実践においてロータリアン家族委員会の活躍も望まれています。

ジョナサンB.マジアベ会長の提唱される「手を貸そう」(Lend a Hand)のテーマのもと、手を取り合い、心を合わせ意義ある年度を築き上げたいと願うものです。

第3グループ ガバナー補佐 **吉田 健** (飯能RC)**ガバナーを支援し、クラブの活性化を**

今年度、第3グループのガバナー補佐を仰せつかりました吉田でございます。よろしくお願い申し上げます。

当2570地区におきましても、数年前より地区リーダーシッププラン（DLP）を導入しており、引き続き本年度もDLPを実行致します。私はDLPを正しく理解し、補佐としての主要責務に当たりたいと思っております。それには担当クラブの管理運営に関して高山ガバナーを支援することだと思っております。

その一例として、ガバナー公式訪問例会のクラブ協議会は、補佐が担当することになりました。ガバナーの負担を軽くし、柔軟性を持たせ、クラブの活性化を図るという目的です。

また補佐の仕事の一つとしては、クラブのレベルを超えて奉仕する指導者を育成することだと思います。

所期の目的達成のために皆様のご協力をお願い申し上げます。

第4グループ ガバナー補佐 **浅田 進** (本庄南RC)**情報の共有と認識の深化に理解とご協力を**

地区協議会の際、ガバナーから示された方針の中で、DLP（地区リーダーシップ・プラン）の定着を目指す。自主的なクラブ活動を奨励する。この2点が今年度の活動の中心になるものと理解しております。

DLPが導入されて数年たちますが、私も含め余り理解されているとは思えません。機会を見つけて、理解を深める努力をしたいと思いません。

自主的なクラブ活動は、ロータリー活動に元

気をもたらす起爆剤になります。お手伝いできることがあれば努力したいと思います。

これらの推進のための手段として、インターネットを活用して、情報の共有化と認識の深化を図り、皆で勉強しながら推進できればと存じます。

第5グループ ガバナー補佐 **小林熊二** (熊谷RC)**バランスのとれた活動を**

高山ガバナー年度にガバナー補佐を仰せつかり、責任の重さを痛感しております。

補佐の任務は、ガバナーの手足となってガバナー方針をクラブに伝達し、クラブの意見等を吸収してロータリーの健全な発展に寄与すべきものと考えています。

その上で、各クラブにはバランスのとれた活動がなされるようお願いしていくつもりですが、それは、今では5大奉仕とも言える各部門それぞれが、全国の各クラブの平均値には達して頂

きたいと思うからであります。

ある部門の活動は、非常によくやられているのに、他の部門は全く取り組まないといったことのないよう、それぞれに有能な人材配置と予算配分の工夫をお願いしたいものです。

もちろん、クラブの特徴ある伝統は尊重致しますので、特徴はさらに前進させるとともに、他の部門も手を抜かないということがとても大切なことと考えています。

本年度は、よろしくお願い申し上げます。

部門委員長 本年度の抱負と方針

クラブ奉仕部門 委員長 中山恵詞 (所沢RC)

元気になるクラブ活動

高山ガバナーは、クラブ奉仕関係の活動方針として、①会員増強・退会防止、②ロータリー家族委員会の新設、③女性会員の活動強化、④インターネットの活用などを挙げています。

活動方針＝会員増強・退会防止については拡大増強委員会を「増強・退会防止委員会」に変更、さらにロータリー家族委員会を設けたことです。

ロータリー家族委員会の活動は、百年委員会の活動と合致しますので、女性会員の増強と合

わせて推進。クラブでは、ロータリアンの配偶者、子どもたちにも拡大して親睦と娯楽、奉仕活動を各クラブで盛り上げて頂きたいと思えます。

ロータリー情報では、ロータリークラブを運営するに当たって最低限クラブ定款・細則の活用、インターネットの活用。

ロータリーの情報源である「ロータリーの友」を必ず読んで頂き、クラブ会報の工夫された紙面づくりに力を入れて頂くことに期待します。

職業奉仕部門 委員長 橋本正彦 (朝霞RC)

最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる

人の真価が問われるのは、困難に直面したときだとよく言われます。その意味では、昨今の厳しい経済状況で、経営者の真価が問われているのではないのでしょうか。そこで、今年度は企業倫理と経営の調和を考え「最もよく奉仕するもの、最も多く報いられる」を実践したいと考えています。そこで、次の三つの課題に取り組みます。

第1は、職業奉仕研修会の実施です。今年度はグループ別に5回の研修会を実施します。内容

のある講演及び情報交換で、出席されればきっと感動されることと思えます。

第2は、“私の職業倫理と職業紹介”の冊子作成です。ロータリアンの経営者が自己の職業倫理観をじっくり考えることに意義があります。

第3に、グローバルリサイクル活動の支援です。タンスに眠っている衣料品を、寒さに震えている地球家族に送る運動です。タンスが空になれば、次なる経済効果が見込まれます。

社会奉仕部門 委員長 武田 哲 (深谷東RC)

環境問題に関する情報提供

ロータリアンは、ロータリーに誇りを持って、みずからの職業を通じて社会に奉仕をしています。そしてさらに、より目に見える形で、地域社会に対しての奉仕をしています。

環境、高齢者、障害者、青少年等々、地域社会で解決を要する問題はさまざまあります。

地域に根差したロータリアンは、地域の問題を解決していく中で、素晴らしい喜びが得られます。

ロータリーは、みずからの職業をまず充実させて、そしてさらに奉仕ができる喜びも味わえる、素晴らしい組織です。

地区の社会奉仕部門は、特別な奉仕プロジェクトは致しませんが、本年度、特に環境問題に関しての各クラブの奉仕プロジェクトに役立つ情報の提供を、地区の事業の中心と考えています。

新世代部門 委員長 郷家正和 (坂戸RC)**ローターアクト・インターアクトの向上と充実**

次代を担う若者を対象とする私たちの部門が、新世代部門として新たに独立して2年目を迎えました。RIテーマ「Lend a Hand 手を貸そう」は、いろいろと解釈できますが、当新世代部門から見れば、まさに時宜にかなったテーマと言えましょう。また高山ガバナーは、掲げられた三つの目標の第1に「人づくり 世代を担う青少年」をうたわれました。

新世代部門としては、沈滞気味のローターア

クト・インターアクトに対し、その内容の向上と充実に一層励み、さらに拡大に向けて活動する所存です。

青少年交換は数年前から比較すると交換数の減少は否めませんが、質の向上に努めます。ライラは取り組み方法によっては、難しい一面がありますが、他の委員会との共同事業をも視野に入れ、期待にこたえたいと思います。

ロータリー財団部門 委員長 野中弘之 (熊谷東RC)**皆様のご理解とご協力をお願いします**

地区財団活動は本年度より多くの点で方向が変わります。その中から一つ挙げると、これまで国際奉仕の分野にのみ使われていた資金が、地区補助金として各クラブの社会奉仕活動にも活用できる道が開けたことです。(DDFの20%を上限として)

<抱負と方針>

①教育的プログラムでは、すぐれた国際親善奨

学生の派遣及び募集。近いうちに世界平和奨学生が出てくれることが夢。

②新たにスタートする地区補助金、マッチング・グラントに各クラブ積極的に挑戦して頂きたい。

③これらの財団地区活動を展開するためには、年次寄附1人\$95を中心とする\$258,000の年次目標達成が不可欠であることのご理解、ご協力をお願いします。

米山奨学部門 委員長 井花富男 (新狭山RC)**後に続く人たちのために**

米山の奨学事業は、戦後間もないころ、東京RC独自のものとしてスタートしました。次第に全国のロータリアンの賛同を得て、現在では日本の全ロータリアンの善意の寄附に支えられ、日本を留学先に選んだ外国人留学生を支援する国際奉仕事業となっています。残念ながら長引く不況のため、寄附額が毎年減少傾向にあり、現況ではこれもある程度はやむを得ないことかと思ひます。

戦後間もない頃は、貧しくても復興という希望が活力になったと思います。現在は満ち足り過ぎて、不況の中、希望も見出せない。しかし子は親の背を見て育ちます。こういうときこそ、後に続く人たちのために希望がわき、元気の出る背中を示す責任があるのではないかと思います。なえた背中からは感動も希望も呼び起こせません。今年もどうぞ米山に温かいご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

委員会委員長 本年度の抱負と方針

増強・退会防止委員会

委員長 小久保富夫 (新狭山RC)

クラブの活性化を

本年度は、退会防止と女性会員の増強に特に力を入れるため、ロータリー家族委員会を新設しました。第2570地区では初めての女性役員(3名)は、卓話などで声がかかれればぜひお役に立ちたいと申しております。

最近女性の活躍は目覚しく、既に2570地区でも女性の会長がおります。日本でも、世界のロータリークラブでも、女性の会員が増強されています。「女性会員のいるクラブは皆明るく退会者もなく、活気にあふれている」ということです。

会員増強は充実したクラブづくりのため、補充しないと衰退してしまいます。クラブの活性化のため、会長、幹事さんそして増強委員長さんの熱意をよろしくお願い致します。

私たちクラブ奉仕委員会全員協力しあって、高山ガバナーの要請におこたえし、精いっぱい務めさせて頂きますので、皆様よろしくお願い致します。

ロータリー家族委員会

委員長 関 靖子 (新座RC)

男女同権の社会を

2003-04年度RI会長ジョナサンB.マジアベ氏、高山ガバナーの方針として、家族委員会を新設するよう提唱されました。家族委員会とは、ロータリアンの家族すなわち配偶者であり、子どもです。また、広義には、ローターアクト・インターアクトの皆様、そしてロータリーを取り巻くすべての団体も含めることができるでしょう。そして、中でも21世紀で最も元気のある女性に焦点が当てられています。女性会員は確実に増加しつつあります。

今や世界的に男女共同参画が推進されている時代です。しかも少子高齢化に向かって、好むと好まざるにかかわらず、すべての職域に女性が進出し、あらゆる分野で社会を支えています。男性も女性も意識改革を通して、真の男女同権である社会をまずはロータリークラブから始めようではありませんか。お互いに協力して、明るい活力ある奉仕の夢が実現するよう努力していきたいと思っております。

ロータリー情報委員会

委員長 栗山 昇 (朝霞RC)

ロータリー情報を知ればロータリーがおもしろくなる

「ロータリー情報を知ることなくして一人前のロータリアンとして語ることはなかれ」少々抵抗ある大袈裟な言葉ではありますが、ロータリー情報を知れば知るほどロータリーがおもしろくなると信じているのは私一人ではないでしょう。

10年在籍の会員でもロータリーのことを理解できないと時々耳にしますが、みずからロータリーを知ろうとしない限り、不燃焼のままロータリーを去ることになると言っても過言ではありません。

一言にロータリー情報と言っても、さまざまな情報があります。当委員会は、あらゆる資料に基づき、正確な情報を伝達し、少しでもロータリーが理解できるようお役に立ちたい所存です。

最後に一言、ロータリー情報の源は、何といっても「ロータリーの友」「手続要覧」にまさるものはなく、すべてのロータリアンに熟読して頂くことをお願いする次第です。

職業奉仕委員会

委員長 野原正次郎 (川越西RC)

ロータリーがクラブと言われるゆえん

職業奉仕は「職業を通じて社会に奉仕する」と定義されています。ロータリークラブが行う奉仕活動は、それ自体が目的であるより、むしろロータリアンに奉仕を実践する勇気と便宜を与えるための機関です。ロータリーが協会とか組合とか言わず「クラブ」と言われるゆえんです。

現在の厳しい社会環境だからこそ、この精神を実行に移し、全員が役者として参加頂けるような活動計画を立てましたので、よろしくお願い致します。

①職業奉仕研修セミナーの開催

各グループごとに経済講演会を含めて開催する。(5回)

②私の職業倫理と職業紹介の冊子作成について

各ロータリアンの心に「私の職業倫理」とは何かを考える機会をつくり、各ロータリアンに自分の職業内容を広くPRすることを目的とする。

社会奉仕委員会

委員長 堀口計一（羽生RC）

組織はシンプルに、活動は理念を持って

今、社会はいろいろな面で曲がり角に来ており、改革の波が押し寄せて来ています。ロータリークラブも、その例外ではないと思っています。

ここで原点に立ち返り、組織はシンプルに、活動は理念を持って積極的に行うべきときではないでしょうか。

現在の社会問題として、家庭から地球規模までの環境問題、青少年非行の低年齢化、そして少子高齢化社会と、三つの大きな問題があるかと思います。そうした中で、その地域のニーズに合った奉仕活動を見つけ、会員みずから汗を流し、奉仕活動を行うことが大切だと思っています。

地区として、すべての問題を取り上げるわけにもまいりませんので、今年度は『企業と環境』をテーマにしたセミナーの開催と、各クラブの奉仕活動の報告を頂き、それをさらに各クラブに情報発信していきたいと思っています。

国際奉仕委員会

部門委員長 山田勝也（川越南RC）

委員長 平岡達也（入間RC）

さらに効果的なWCS

国際奉仕委員会はこれまでも世界社会奉仕を中心に「世界寺子屋運動」に取り組み、各クラブにお願いして書き損じはがきやテレホンカードの収集、1円玉募金等を実施してきました。こうして昨年度は約460万円を世界の恵まれない子どもたちに贈ることができました。

今年度も極めて地道な方法ではありますが、ネパールに「第2570地区学校」を建設するためにこの運動を展開し、ロータリアンの間にまた一般の人々の間に理解と善意をはぐくんでいきたいと思っています。

また5年をめどにしている「地雷除去資金の支援」も4年目となりますが、引き続き継続していきます。あわせて「さらに効果的なWCS」を今年度テーマとして活動していく所存です。

ローターアクト委員会

委員長 滝澤常昭（深谷RC）

現在の状況を踏まえ活動していく

現在、関東地区の中でも2570地区はローターアクトクラブのクラブ数が最も少なく、活動中のクラブは、川越・東松山むさし・熊谷の3クラブのみで、クラブ数は減少の一途をたどっています。日本で適齢期の青年は他の奉仕団体への関心が高く、クラブの新設や会員増強は大変厳しい状況となっています。

ローターアクトクラブについては根本的に見直しをする時期に入っていると思いますが、一方では他地区で大学を中心としてクラブが設立され、活発な活動をしているのは注目に値します。

本年はこのような状況を踏まえ、現在活動中のクラブへの協力・援助、休眠中のクラブへのアドバイス、さらには地区内の大学へのアプローチ等、活動方針としたいと思います。また、新世代部門の一委員会として「日豪青少年相互訪問派遣団」プログラムの推進も重要なテーマです。

会員の皆様にはよろしくご協力お願い致します。

インターアクト委員会

委員長 田中博兼（熊谷RC）

インターアクトクラブの休会を食いとめる

本年度のインターアクト委員会と致しますと、各学校の顧問教師の先生方と連絡を密にして、地区内のインターアクトクラブの休会を何としても食いとめなくてはならないと思う。昨年度は15校でしたが、今年度は1校減の14校であります。

インターアクトは高校生を対象としている青少年で、これからの21世紀に活躍する若者でありますので、地区内提唱ロータリークラブと積極的に連絡をとり協力して頂いて、本年度もいろいろな奉仕プロジェクトに参加し、地域社会に奉仕し、また国際理解を推進していかなくてはならない。

インターアクト委員会は、年度内に三つの大きな事業がある。第1に地区年次大会、第2は地区合同奉仕活動、そして第3に地区次期指導者講習会である。

委員会委員長 本年度の抱負と方針

青少年交換委員会

委員長 山崎嘉正 (川越RC)

民間親善大使としての役割

青少年交換プログラムは、高校生を対象とした親善交流を通じて、国際理解の向上と世界平和の推進に寄与することを目的としております。

異文化を肌で体験することで、自国との生活習慣、ものの考え方などの違いを認識し、そこから異文化の存在を認め、さらに理解を深めることができれば、それが国際理解への第一歩と言えるでしょう。そこに生きる人々と生活を共にすることが、まさに異文化の体験であり、互いのコミュニケーションの中で理解と親善を図ることが、民間親善大使としての役割なのです。

さて、私たち委員会はこのプログラムを通じて、世界中に友好と親善の輪を広げるための、お手伝いをしておりますが、1人でも多くの若者に生涯にわたる「世界に手を貸す」機会を与えることができればと、この1年頑張ってみようと思います。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

ライラ委員会

委員長 山田 晃 (行田RC)

若い指導者たちを養成

ロータリー青少年指導者養成プログラムは、若い人々とロータリアンが参加する地区プログラムであり、若い人々の指導者及び善良な市民としての資質を伸ばすことを目的としています。

ロータリアンは青少年が将来の指導者となることを認識しており、将来の指導者を養成するのは重要な任務です。

青少年が人生の重大な決断を下す際に援助の手を差し伸べ、若い指導者たちを有望な方向に導き、指導者としての可能性を活かす最良の方法を見分けるビジョンを提供しようと思います。

RYLAは主要なロータリー青少年活動であるとともに、ローターアクトクラブとインターアクトクラブの結成や強化にもつながります。RYLAの目標を実践し活動していきたいと思っております。

R財団推進委員会／補助金委員会

委員長 梅澤将明 (坂戸さつきRC)

地域に密着した奉仕活動を

R財団推進委員会としては、まずは、各クラブのR財団に対する理解を深めるために、クラブのR財団委員長さんに複数年でその任務を務めてもらい、R財団の内容やプログラムに対して委員長さんみずから勉強をして頂き、「クラブ内でのR財団の活動に対して活性化を図る」という目的を推進する、大きな初年度であると言えます。

また「地区補助金」については、R財団の地区活動資金の中から20%が、人道的な社会奉仕に対して使用できるようになりました。現金を寄附することはできませんが、車いすや図書の寄贈等、地域に密着した奉仕活動が、より実践的に行われることが望まれるプログラムです。これはR財団の大きな改革であり、転換期とも言えます。全クラブへは補助金を授与することはできませんが、競争性の中で選定をさせて頂きたいと考えておりますので、多くのクラブの申請を期待しています。

R財団奨学学友委員会

委員長 弓田勝俊 (越生毛呂RC)

次世代を担う優秀な若人の育成

2003-04年度派遣国際奨学生6名の留学が決まり、新たに2004-05年度派遣国際奨学候補生8名を選出することができました。年間5回のオリエンテーション、2回の財団セミナー、各クラブでの卓話等を行い、「ロータリーについての知識」を学び、国際親善奨学生として立派な成果が得られるように、学友会の強力なる支援を受けながら育成に努めてまいります。

今回から、申請の方法が大幅に変わったため、各クラブさんにとりましてはご不明点が多々あり、今後改善できるところは改善していきたいと思っております。

ロータリー活動でこのプログラム(R財団国際親善奨学金)がロータリー活動のかなめだと言っても過言ではないでしょう。各会員の皆様、次世代を担う優秀な若人の育成に貢献するために、今後ともご理解ご支援を切にお願い致します。

G S E 委員会

委員長 宮澤 正 (朝霞キャロットR C)

次年度に向けて

地区分割後、9年間休止していたG S Eプログラムが1998 - 99年の本塚年度より、3年に1回の予定で再開され、既にこれまで2回(アメリカ7630地区、台湾3480地区)のG S E交換が大きな成果を上げ終了したことはご存知のとおりです。

今年度(高山年度)は開催しない年度となっている関係から特段の活動はありませんが、前回の台湾3480地区とのG S E交換経験を生かし、またこれまでのG S E委員長の指導を仰ぎながら、次年度(正田年度)の委員会に継承すべく準備をしまいたいと思います。

米山奨学推進委員会

委員長 松田正己 (所沢中央R C)

長引く不況を乗り切るには助け合いの精神

今年度は、長引く厳しい経済環境のもと、会員数の減少もあり大変な年度を迎えております。地区の予算も1人当たりに換算しますと1万5,000円強となります。したがって、助け合いによる全会員の格別のご協力なくして従来活動だけでは予算の達成は、難しいかもしれません。

そこで、各クラブの普通寄附金を年間6,000円にして頂き、そうすることによって地区全体で個人の特別寄附金を10人減らすことができるのです。これは大きな助け合いの精神です。

次に、各クラブの皆さんが米山の奨学生と接し親しくなることです。これは10月の米山月間だけではなく、普段から各クラブが米山奨学生を卓話に迎えて頂きたいと考えております。まず、米山奨学生と接し、知ることです。そこから興味がわき、親しみが芽生え信用が生まれ、その上に大きな奉仕の精神が築かれるものと私は思います。

米山奨学学友委員会

委員長 西澤孝夫 (越生毛呂R C)

奨学生との心の交流

米山奨学事業は、日本へ勉強に来た外国人留学生を支援することで、国際社会において活動する指導者を育成し、優秀な留学生に奨学することを目的としています。

本年度も24名の奨学生と元奨学生である学友の皆さんと共にオリエンテーションに始まり、卒業生を交えた学友会総会、カウンセラーと一緒に米山梅吉記念館への研修旅行、そして奨学生とOB、またロータリアン参加のパーベキュー大会、地区大会、卒業生の歓送会等の行事を通して、各地区でロータリアンと奨学生との心の交流の輪を広げ、充実した学生生活を送れるようお互いに手を携えて明日に向かって共生していきたいと思っております。

本年度はこの意義ある米山奨学事業を、ぜひ皆様にご理解を頂きますと同時に、微力ながら学友委員長として頑張る所存でございますので、ご支援をよろしくお願い致します。

編集委員会あいさつ

月信編集委員長 木藤文雄 (坂戸R C)

「親しみの月信」を目指して、見て頂ける「月信」にしようとしてスタートしました。ロータリーの「心を訴えられるもの」というガバナーの希望で表紙づくりから始め、R I会長テーマ“Lend a Hand”から、世界の貧困の中で、未来に輝く瞳を持った「子どもたち」をテーマにしました。

これらの写真で世界平和・飢餓撲滅・識字率向上等を多少なりとも訴えられればと願い「世界の子ども」シリーズでこの1年の表紙を飾ります。

本年度は会員及びご家族にも紙面づくりに参加して頂きたく「ギャラリー2570」の欄を設けました。ぜひともご投稿頂き、ご意見・ご要望等もお寄せ下さい。なおHP (<http://www.rid2570.gr.jp>)にも「月信」を掲載していますのでご覧下さい。

当委員会に委員はいません。ガバナーの指導のもと、印刷会社の方と事務局員とで細々と編集作業をしています。この1年間、よろしくお願い致します。